

# えんたい 縁庭

うつろいの中で、  
伝統を魅せる。



## 栗山の変わらない風景、獅子舞

日光市栗山郷は、鬼怒川の最上流域に位置する。

栗山郷各集落には獅子舞の伝統があり、ダム建設といった大きな生活の変化を経験しながらも脈々と受け継がれてきた。このように不変性を有する獅子舞だが、現在各集落は高齢化に直面し、年々上演数が減少しており、継承の方法が模索されている。獅子舞を後世に引き継ぐためには、集落外の人にも栗山の獅子舞に興味を持ってもらうことが重要である。

## コンセプト：伝統を強調する空間づくり

集落外の人にも栗山の獅子舞に興味を持ってもらうために、その特徴のひとつである変遷性をうつろいとの対比によって強調する空間を提案する。

## 栗山の8つの獅子舞をうつろいの中に持ち込む

提案  
栗山の伝統である獅子舞をうつろいを感じることのできる空間で行うプログラムとその空間計画を提案する。

### 対象地：マゴリ沢

マゴリ沢は湯西川ダム湖にある。炭焼きのために広葉樹林が消滅したのちに建材需要の高まりから針葉樹が植えられたが、ダム建設により水没し、現在の結果として立ち枯れた木々を見られる。また、ダムにより年間約20mの水位差が生まれる敷地である。このようにマゴリ沢には既存的な時間軸のうつろいと周期的な時間軸のうつろいが表層に現れている。現在はダムの管理用道路として使われており、広く一般には知られていない。

### 伝統：8つの獅子舞

栗山郷の獅子舞は、各地区ごとに独自の起源や特色を持つ。湯西川・黒部・日向のものが文殊流（昔の今市市）と、後地方の獅子舞を元祖とする）の系統をひくもので、川俣・野門・土呂部のものが開白流（昔の上河内村開白の地の獅子舞を元祖とする）を名乗っている。

## 断面図

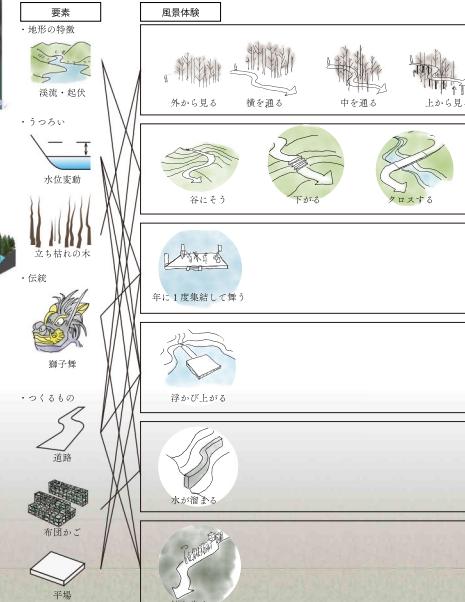


季節によってダム湖の水面の位置が20m変化することを利用し、獅子舞が行われる8~10月に舞台が水上に浮かび上がる。また、水位変動によって一時的に生じる深地にピオトープを設けることで、うつろう生態系を楽しむ場にするほか、日常的に感じることができる視点場をつくる。

## うつろいの体験と伝統の演出

うつろいの対比による伝統の強調のためには、その地のうつろいに日常的に触れてこそその効果を十分に發揮する。本提案では、マゴリ沢の地形の特徴とマゴリ沢が有するうつろいの要素をもとに手を加え、うつろいを日常的に体験できる空間と伝統を強調できる空間を設ける。

### 要素の組み合わせで演出する風景体験



## 平面図

